



日本民踊研究会豊渕会 会主

田中豊渕さん

たなか・ほうえん 本名は典子^{のりこ}。1939年生まれ。玉名市大浜町出身、荒尾市増永在住。荒尾市文化協会の会長も務める。趣味は料理。「踊りの輪を人の和に、踊って心にともしびを」がモットー

「頼まれたら、応えずにはいられない性格だっただけです」とはにかむ日本民踊研究会豊渕会会主の田中豊渕さん。昨年11月、日本の伝統芸能である民踊の継承・発展に国内外で貢献した功績をたたえられ、地域文化功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。「民踊は庶民の生活の所作・作法から生れたもの。まさに地域の文化を表しているものなので、受け継いでいけるよう努力していきたいです」。

9歳で日舞の初舞台を踏んだ田中さんが民踊と出会ったのは中学生の頃。「大人数で踊るから楽しいし、仲良くもなれて、地域のつながりも出来ます」とその魅力を語ります。高校生の頃には指導者としても活躍を続ける中、「より本格的に民踊を教えて」との周囲の声に押され、1971年に豊渕会を結成します。長洲町、玉名市などで多数の民踊の振り付けを手掛け、1974年からは日立造船有明工場民踊部の創設と指導にも携わるなど活躍の場を広げます。

そんな中、1979年に田中さんへアメリカのサンフランシスコ桜祭りでの民踊披露の依頼が来ました。突然の依頼に驚きつつも、「民踊の楽しさはきつと伝わる」と参加を決意。結果、田中さんたちの民踊はアメリカでも好評を博しました。「楽しんでもらえたのはもちろん、現地の日本人に涙を流して喜んでもらったことに感激しました。海外でも求められているものなんだと実感しました」。以後、海外でも積極的に活動を始めた田中さんは、1983年、ロサンゼルスに教室を開設し、1988年からはブラジルでも公演を始めます。2008年には、ブラジルでの日本移民100周年記念式典で「1万人の盆踊り大会」を成功へと導き、サンパウロ州から「金の榮譽賞」を受けました。現在は、8月に市で開催するくまもと子ども芸術祭の成功に向けて奔走する日々です。「民踊を通して、子どもたちに先人の歴史・文化を肌で感じてもらえればと思います」。



1_2015年、鹿児島で開催された国民文化祭で炭坑節を披露しました 2_ブラジルのサンパウロ州バストス市での民踊指導の様子。1995年にはブラジル統合教育協会からグランクルス勲章も受章しています 3_子どもたちへの民踊指導も積極的に行っています 4_田中さんが振り付けした肥後米音頭。米作りの動作をもとに創作したものです

